

コンクリートの凍結融解抵抗性の評価方法に関する研究委員会
第2回全体会議議事録(案)

日 時：平成19年7月12日(木) 16:00～17:40

場 所：ドーミーイン仙台

出席者：河野委員長、千歩主査、田口副主査、名和主査、阿波副主査、近松主査、石川委員、
遠藤委員、緒方委員、加藤委員、十河委員、高田良章委員、高田龍一委員、高橋委員、
長谷川委員、濱委員、林田委員、鳥居南氏(事務局)

配布資料：

- 3-1 第1回委員会議事録(案)
- 3-2 第2回幹事会議事録(案) 名簿
- 3-3 2.27+6.8 研究委員会への報告
- 3-4 報告書目次案
- 3-5 委員会名簿
- 3-6 環境評価WG報告
- 3-7 性能評価WG報告
- 3-8 試験方法WG報告

議事：

1. 今後の委員会とWGの開催回数について

委員長より本年度の予算の総額、これまでの執行状況について説明があった。事前にEメールで幹事をお願いしたアンケート結果を参考に、予算等の制約から、12月に委員会+WGを開催すること、その前に各WGを1回ずつ、年が明けて各WGを1回ずつ、開催することが合意された。

2. 各WGの活動計画状況の説明およびWG間で調整が必要な事項の抽出

資料3-6から3-8をもとに、千歩、名和、近松の各WG主査から、現在までの各WGの活動の状況、問題点が説明された。主な項目は以下のようである。

- ① 特に劣化機構関連の用語を統一する必要がある。→環境評価WGから情報を発信する。
- ② 環境評価WGの劣化事例は、数が多くなりそうなので、その場合はCD化を検討する。
- ③ 試験方法WGでは、当初、共通試験等を実施することを予定していたが、予算等の関係で難しい。このため、試験法の問題点と解決のための検討項目を提示するところまで検討する。本格的に試験法を整備するためには、別途委員会を立ち上げるべきであろうとの意見が出された。
- ④ スケーリングについての試験法を提案するには、劣化実態をしっかり把握する必要がある。

3. 7/10JCI 仙台ポスターセッション：凍害の補修方法についての質問やASTM C 666の凍結融解試験に手間がかかるため、簡略化してほしいとの意見があった。

4. 今後の予定

- 1) 次回全体委員会：12月11日を第一候補、12月5日を第二候補とする。同日、WGも開催する。
- 2) 来年の年次大会関係： 報告書(A4・10ページ)の締切りが4月であり、ポスター(4枚)の締切りが5月上旬である。
- 3) 委員会報告会： 来年度に委員会の報告会を行う。単なる報告会にするか、シンポジウム形式にするかは、次回の委員会で決定する。シンポジウムにする場合は、論文募集を行う必要がある

ので、少し時期が遅くなる。会場は、東京および札幌を予定する。札幌の報告会は、本部主催にするか、支部主催にするか、合同開催にするかは、今後決定する。共同開催に関する事務的な問題点を詰めておく。

以上（作成：河野）